

インドネシア  
グヌン・ハリムン-サラク国立公園管理計画  
中間評価調査報告書

平成19年1月  
(2007年)

独立行政法人 国際協力機構

地球環境部

## 序 文

日本国政府は、インドネシア国政府の要請に基づき、平成 16 年（2004 年）2 月より、同国において、生物多様性の保全や適切な自然資源利用の推進とともに、プロジェクト実施を通じて得られた国立公園管理に関する知見を普及させることを目的とする「グヌン・ハリムン-サラク国立公園管理計画」を開始しました。

国際協力機構は、5 年間の協力期間の中間地点にある本プロジェクトが、期待される成果を発現しつつ順調に実施されているかを包括的に検証するとともに、プロジェクト目標の達成を見据えた協力期間後半の活動の方向性及び計画の軌道修正の必要性について提言を行うため、平成 18 年（2006 年）11 月 21 日（火）から 12 月 7 日（木）まで、当機構地球環境部第一グループ森林・自然環境保全第一チーム長の三次啓都を団長とする中間評価調査団を派遣しました。

調査団は、インドネシア側メンバーと合同中間評価チームを構成し、本プロジェクトの投入実績、活動実績、計画達成度を、調査・確認し、課題・問題点を整理した上で、JICA 事業評価ガイドラインに基づき、5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価するとともに、今後の活動の方向性について関係者と協議し、提言を行いました。また、これらの調査・評価結果を、合同評価表としてミニッツ（Minutes of Meeting）に取りまとめ、署名交換を行いました。

本報告書が、本プロジェクトの今後の推進に役立つとともに、この技術協力が両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待いたします。

最後に、この調査にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成 19 年 1 月

独立行政法人 国際協力機構  
地球環境部長 伊藤 隆文

# 位置図

## グヌン・ハリムン-サラク国立公園



## インドネシア全土

# 写 真



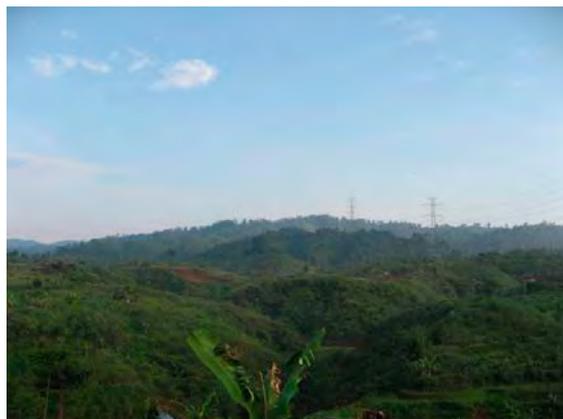
JICA インドネシア事務所での事前協議



GHSNP 公園本部外観



GHSNP 公園所長による説明（公園本部にて）



GHSNP 公園の境界付近の様子



MKK 活動対象村（Cipeuteuy 村）周辺の様子



MKK 活動対象村住民による管理林（Cipeuteuy 村）



GHSNP スカブミ県事務所外観



チカニキ・リサーチ・ステーション外観



チカニキ周辺のキャノピートレイル



合同評価調査団内での協議



プロジェクト合同調整委員会での評価報告



ミニッツ署名

## 略 語 表

BAPI	インドネシア生物多様性行動計画
BCP	生物多様性保全計画プロジェクト
C/P	カウンターパート
EE	環境教育
GHNP	グヌン・ハリムン国立公園
GHSNP	グヌン・ハリムン-サラク国立公園
IDR	インドネシア・ルピア
IPB	ボゴール農科大学
JICA	独立行政法人国際協力機構
JPY	日本円
LIPI	インドネシア科学院
M/M	協議議事録
MKK	環境保全型集落モデル
NCIC	自然保護情報センター
PCM	プロジェクト・サイクル・マネージメント
PDM	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PHKA	林業省森林・自然保護総局
PO	活動計画
R/D	討議議事録
USD	US ドル

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：インドネシア	案件名：グヌン・ハリムン-サラク国立公園管理計画
分野：環境（自然環境）	援助形態：技術協力プロジェクト
所管部署：地球環境部 森林・自然環境保全第一チーム	協力金額（評価時点）：3.6 億円
協力期間 2004年2月1日～2009年1月31日 (R/D 締結日)：2003年12月29日	先方関係機関： 林業省森林・自然保護総局、林業省自然保全情報センター
	日本側協力機関：環境省
	他の関連協力：個別専門家
1-1 協力の背景と概要	
<p>インドネシア国（以下「イ」国）は高温多湿の熱帯性気候地帯にあり、世界有数の生物多様性の高い国として知られている。しかし、急速な人口増加や産業発展による土地需要の増加で熱帯林の伐採等、森林面積が減少し、自然環境の破壊と生物種の減少が懸念された。このため、「イ」国政府は1991年に「インドネシア生物多様性行動計画」(BAPI)を制定し、生物多様性の保全を推進することとした。</p> <p>こうした状況下、1992年に日米政府は「日米グローバルパートナーシップアクションプラン」を発表し、日米環境共同協力事業として途上国における自然資源の管理と保全のための事業をおこなうこととなり、「イ」国が対象国に選ばれた。これを受けて「イ」国政府は同国に適した生物多様性保全を図るために、我が国政府に技術協力プロジェクトと無償資金協力を要請した。この要請に基づき、技術協力プロジェクト「インドネシア生物多様性保全計画」(BCP)（フェーズI:1995年～1998年、フェーズII:1998年～2003年、合計8年間）と1997年に生物多様性保全に有用な施設整備などの無償資金協力を実施した。</p> <p>グヌン・ハリムン-サラク国立公園（以下、「GHSNP」という）管理計画プロジェクトは、このような背景から、2002年「イ」国政府より、我が国に対して技術支援が要請され、2004年2月からの5カ年計画で実施しているものであり、上記の技術協力プロジェクト及び無償資金協力で得られた公園管理手法や生物多様性保全の技術を更に充実させるとともに、GHSNPをモデルとして公園管理手法を確立させ、そこで培われた技術を他の国立公園に対してワークショップや研修を通じて普及させることを目指している。</p> <p>今般、プロジェクト協力期間の中間地点にある本プロジェクトが順調に実施されているかを包括的に検証するとともに、プロジェクト目標の達成に向けた協力期間後半の活動の方向性及び計画の軌道修正の必要性について提言を行うことを目的として、中間評価を実施した。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標：インドネシアの国立公園における生物多様性の保全とその持続可能な利用が促進される。	
(2) プロジェクト目標：	
1 GHSNPにおいて生物多様性が適切に保全されるとともに、適切な自然資源利用が推進される。	
2 GHSNP国立公園周辺にてJICAプロジェクトにより得られた公園管理手法に必要な知見が林業省職員や他の国立公園において共有される。	

(3) アウトプット：

- 1-1 GHSNP の管理の枠組み (management framework) が、関係者の参加の下でより強化され、管理にかかる方針・戦略が多くステークホルダーと共有される。
- 1-2 公園管理に必要な、情報システム等が開発される。
- 1-3 GHSNP の生物多様性調査が促進され、特にヒョウ、ジャワギボン、テナガザルの 3 つの希少動物が適切にモニタリング・保全される。
- 1-4 地域住民参加による保全と持続的な資源利用が GHSNP のモデル地区において促進されるとともに、その経験が紹介される。
- 1-5 エコツーリズム及び環境教育の推進が強化される。
- 2 GHSNP の組織及び個人の能力が強化され、本プロジェクトの成果が他の国立公園職員や林業省職員と共有される。

(4) 投入 (評価時点)

日本側：

長期専門家計	延べ 3 名 (99M/M)
短期専門家計	延べ 8 名 (10M/M)
機材供与	約 3,066 万円
カウンターパート研修	12 名
運営管理費	合計 約 7,833 百万 IDR (邦貨 約 1 億円)

インドネシア側：

カウンターパート及びスタッフの配置 延べ 33 名  
土地、建物、施設の運営管理費などを含めたローカルコスト負担 (林業省がグヌン・ハリムン-サラク国立公園に対して拠出した全体予算)  
合計約 10,181 百万 IDR (邦貨 約 1 億 3 千万円)

2. 評価調査団の概要

調査者	(担当分野：氏名 職位)
	(1) 総括： 三次 啓都 JICA 地球環境部第一グループ 森林・自然環境保全第一チーム チーム長
	(2) 環境協力： 堀内 洋 環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室 室長補佐
	(3) 計画評価： 佐々木 大吾 JICA 地球環境部第一グループ 森林・自然環境保全第一チーム
	(4) プログラム 宮崎 香 JICA アジア一部第一グループ 策定： 東南アジア第一チーム ジュニア専門員
	(5) 評価分析： 市川智子 A&M コンサルタント有限会社 コンサルティング部 シニア・コンサルタント

調査期間	2006 年 11 月 21 日～12 月 6 日	評価種類：中間評価
------	---------------------------	-----------

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 投入実績

日本側投入として、長期専門家 3 名 (99M/M)、短期専門家累計 8 名 (10M/M) が派遣されており、派遣時期、専門分野及び技術において総体的に適切であった。また、カウンターパート (C/P) 研修では、現在までに、12 名の C/P が、主に「国立公園管理政策」の研修を受けており、研修を通して国立公園管理に対する理解とモチベーションの向上がみられた。インドネシア側投入として、C/P の配置累計は 33 名 (575M/M) であったが、その不安定な配置がプロジェクト活動の進捗に影響を及ぼした。

## (2) 活動実績

P0に記載された多くの活動が開始されてはいるものの、ほとんどの活動はP0上のスケジュールと比べて進捗が遅れている状態である。いくつかの活動においては、さまざまな成果品とともに活動が実施されているが、全体的な活動の進捗の遅れを取り戻すだけの有効な対策については、いまだ不十分な状況にある。しかしながら、質問票やインタビューの集計結果によると、C/Pはプロジェクトの進捗に対して高い関心を示していることから、これらの活動が継続的に実施されていけば、今後ある程度の達成度があると判断することができた。

## (3) アウトプットの達成状況

### アウトプット 1-1 国立公園管理の枠組み策定

PDM(Ver. 01)上の指標に基づくアウトプット 1-1の成果は複数確認された。まず、ステークホルダーの参加については、PDM(Ver. 01)上には地方自治体の参加についての記載はないが、プロジェクトにより各種セミナーが開催されており、複数のステークホルダーの参加が見られた。

現在は、公園管理計画がドラフトの段階にあり、今後予定されているプロセスに沿って計画的に策定作業が進められることにより、このアウトプットの達成が期待される。

### アウトプット 1-2 情報システム整備

プロジェクトでは、活動実施チームにおいてデータ処理が施され、データリストが作成されており、情報システムが一定レベルで利用可能な状況に整備されている。さらに、この情報システム整備は、ゾーニング、MKK活動、希少種保護のモニタリング、エコツーリズムなど、他のプロジェクト活動分野に必要な情報を提供するものである。アウトプット 1-2の達成状況は、現時点では、十分なものであるといえる。

### アウトプット 1-3 希少種保護とモニタリング

PDM(Ver. 01)上の指標に基づき評価をすると、アウトプット 1-3の達成状況を明確に検証することは困難であった。しかしながら、アウトプット達成度を示す幾つかの文書や図表が確認された。策定済みのモニタリング方針や計画は、アウトプット達成の基盤となる枠組みであり、これらの成果を機能的に統合することが必要である。MKK活動では希少種保護を直接の活動にはしていないが、住民(MKK活動関係者)は、自然資源の重要性を認識しており、希少種についての情報を提供することで希少種保護についての意識は高まると思われる。以上から、総合的なプロジェクトの活動の取組みのもと、より効果的且つ効率的に希少種保護活動が行われれば、確実にアウトプットの達成が期待されると思料される。

### アウトプット 1-4 住民参加型活動支援

PDM(Ver. 01)上の指標に基づき評価をすると、例えば、MKK地域における荒廃地の森林回復のための植林活動の実績、面積、対象樹種や共同パトロールの回数(Joint Observation Activities)、住民経済動向調査(実施数)についての成果がプロジェクトより明確に提示されており、高いアウトプットの達成度が確認できた。また、P0と照合しても、活動の進捗状況はほぼ予定通りである。これらの理由により、他のアウトプットの達成度と比べ、アウトプット 1-4の達成度は極めて高いといえる。

### アウトプット 1-5 エコツーリズム、環境教育及び広報の強化

PDM(Ver. 01)に設定されている指標に基づき評価すると、各々のプロジェクト活動の結果により産出された幾つかの成果を確認することができたため、アウトプット 1-5はほぼ達成されつつあると判断できる。特に、環境教育プログラムはMKK活動地域において優先的に行われていたため、アウトプット達成度をより明確に示す幾つかの図表や教材及び広報パンフレット等を確認できた。なお、環境教育プログラムの教材は、本プロジェクト前に実施されたBCPIプロジェクトからの教材を更新・活用しているものである。

## アウトプット 2 組織及び個人の能力が強化され、本プロジェクトの成果が他の国立公園職員や林業省職員と共有される。

PDM(Ver. 01)に設定されている指標に基づき評価をすると、指標 2.1a や指標 2.1c に対応する実績は、本邦 C/P 研修を含む各種研修や OJT の実施である。指標 2.1b や指標 2.2a の研修モジュールは現在構築中であるため、プロジェクトの中間時点ではその内容や数もしくは有用性を未だ確認することは出来ない。部分的な成果は確認されたが、成果記録や整理されたデータが少なかつたため、アウトプット 2 の達成度を十分に確証することは困難であった。但し、アウトプット 2 に対応する各活動は継続して実施されているため、今後の成果が期待され、指標 2.2b で評価できる研修結果や教訓については、他の国立公園に今後手法や知見を普及・技術移転させることが可能であると思料される。

### (4) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の 1 と 2 に対応する PDM(Ver. 01)上の指標に基づき評価をした場合、関連する文献や報告書がドラフトの段階であり、プロジェクトの中間時点ではプロジェクト目標の達成状況を明確に評価することは困難であった。しかしながら、指標の一つである”Public understanding/appreciation for GHSNP and its management”について、MKK の住民、県職員、国立公園職員、C/P からの聞き取り調査の結果より、プロジェクト活動（例えば MKK 活動）に対する積極性やオーナーシップの高さが確認された。加えて、3-1(3)で説明したとおり、プロジェクト活動の結果、アウトプットの達成に寄与する成果として、ドラフト中の計画の枠組や計画書作成のプロセス図等が確認されており、プロジェクト終了時においてプロジェクト目標はほぼ達成される見込みはあると思料される。

## 3-2 評価結果の要約

### (1) 妥当性

プロジェクト目標は、インドネシア国のアクションプランや法制度に一致している。

また、JICA の援助方針である国立公園管理能力の強化を含む生物多様性保全及び生態系保全とも一致する。

さらに、便益者のニーズについては、MKK 活動対象集落での住民との協議を視察した結果、住民は公園内に居住していることについて、住民自身では効果的な対策を見出すことができない状況にあり、国立公園職員やプロジェクトになんらかの協力を求めていることが確認できた。現時点では、地域住民や地方行政機関などのステークホルダーと公園の協働管理を行うこと以外に、公園内周辺地域居住地に対応する方策は見当たらない。以上のことから、協働管理に向けたプロジェクトの方向性は、利害関係者ニーズに合致している。

### (2) 有効性

プロジェクト実績に対する評価結果に基づき活動とアウトプットの達成度をみる限り、プロジェクト中間時点において、次の 3 点の理由で、プロジェクト目標の達成は見込まれる。まず、プロジェクト目標の達成度についてであるが、PDM(Ver. 01)上の指標からは、明確な達成度はわかりにくい。アウトプット達成に寄与する具体的な成果が確認されていることから、プロジェクト活動が継続して行われることで、本プロジェクト終了時までには成果を達成しプロジェクト目標の達成に貢献すると判断される。次に、プロジェクト目標に対する成果の貢献という観点からみると、アウトプット 1-1 から 1-5 及び 2 は、「生物多様性保全」や、「持続可能な自然資源の利用」、並びに「関係者の能力向上」など、プロジェクト目標に直接貢献する要因を含んでいる。よって、アウトプットの成果達成によりプロジェクト目標は達成されることが見込まれる。最後に、外部条件という観点からであるが、PDM(Ver. 01)上ではアウトプットに対応する外部条件は特に記載されていないことから、プロジェクト目標の達成に問題はないと判断される。

### (3) 効率性

プロジェクトの投入、活動、及びアウトプットの実績状況より、プロジェクトの効率性については、次の点で中程度と評価される。まず、活動とアウトプットの実績については、タスクフォ

ースチーム (Working Team Unit) /活動実施チームの形成とチームによる活動は継続的に行われてきた。また、短期専門家を多く投入する代わりに現地関係者の協力を得ることで現地人材の有効な活用ができた。さらに、GHSNP 自身の取組みとも一致し、現地資源を最大限に活用することができた。次いで、インドネシア国による投入については、投入実績によると、不安定な C/P の配置はプロジェクト活動の進捗に影響を及ぼしたが、インドネシア側からの投入は適切であった。また、聞き取り調査の結果から、国立公園職員（本部、地域部、駐在署）の活動に対する高い意識や積極性を確認できており、これらはプロジェクトの効率性を上げる要因となることが思料される。

#### (4) インパクト

GHSNP は現在、インドネシア国の 21 のモデル公園の一つに選定されており、生物多様性保全や持続可能な自然資源の利用を目指した国立公園管理において、有用な経験、知識、管理手法などを他の国立公園と共有、波及されることが期待されている。特に、当プロジェクトが焦点を当てている MKK 活動及び協働公園管理に関する活動は、最も有効な考え方である。一方、現在プロジェクトはモデル地域を設定しており、優先的な活動を行うことによる住民間でのねたみや衝突（社会・文化面における地域社会への負のインパクト）が危惧されている。これまでの合意形成の過程における、住民との協議（対話）による社会的準備（協働認識調整）を継続的に行いながら、地域社会への負のインパクトを配慮する対策が重要であると思料される。

#### (5) 自立発展性

本評価調査において、制度面、財政面、及び技術面における自立発展性の期待できる複数の要因が見出されていることから、プロジェクトの自立発展性の見通しは高いと判断される。

まず、制度面については、この GHSNP 管理計画作成は、ドラフト作成の段階までできており、GHSNP 並びにプロジェクトにとっても多くのステークホルダーの連携との協力を促すものであるため、制度面の貢献要因の一つといえる。さらに、現在、GHSNP は、インドネシア国の中でモデル国立公園に選定されていることも今後の自立発展性を確保するための貢献要因である。

次に、財政面については、特に、地方自治体（県政府）との協働管理に対する体制が構築されており、県の予算を MKK 及び他のプロジェクトアウトプットの関連活動に割り当てることを予定している。合計約 10,180,792,000Rp. (130,212,000 円) がインドネシア国政府から配分されており、どの程度がプロジェクト運営費用に相当するかの資料等は存在しないものの、公園予算の確保が認められている。

技術面については、プロジェクトでは、情報システム、希少種保護のためのモニタリング活動など、幾つかの重要な活動が継続されている。特に、MKK 活動と地方自治体との協働公園管理計画は、大きな貢献要因となり得る。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

ア プロジェクト活動の中で、MKK の住民に対する協働認識調整、県職員との協力関係の構築、及び国立公園（本部、地域部、駐在署）職員との活動等、地域に根ざした活動は、生物多様性保全や自然資源利用など地域の実情を反映した課題（例えば違法伐採や公園管理における人為的要因が大きく影響していること、またそれらの地域社会での解決策の検討など）に気付いたことは、現状に即した国立公園管理のあり方や管理計画策定の助けになるものであった。特に、MKK など地域住民、インドネシア政府及び地方自治体に対し、今までの閉鎖的な管理から住民やステークホルダーを巻き込む協働管理の必要性を認識させた経緯は、正の（社会）変化を促す重要な要因となり得る。

イ MKK 活動地域社会に残るその地域の伝統的知識は、自然資源の変化を測定する手段の一つとなり得る。このような地域の既存の伝統知識などローカルリソースは、プロジェクトの各種調査研究による情報の蓄積とデータシステム整備と併せて重要な貢献要因となる。

ウ 制度面、財政面、及び技術面における自立発展性の確保が確認されていることは効果発現を促進する重要な要因である。

## (2) 実施プロセスに関すること

ア JCC の開催は少なかったものの、プロジェクト活動を説明する各種セミナーの継続的な開催により、インドネシア政府、国立公園との協力体制が強化されつつある。

イ MKK などプロジェクト活動実施チームによっては、スケジュールどおりに活動が実施されており、各々の活動実施チームによる活動の成果は確認されているため、プロジェクト実施における運営力や積極性は十分にあると判断される。さらに、投入の質、量、時機は適切に行われ、且つ、C/P 及び本部、地域、駐在署レベルの国立公園職員からプロジェクト活動や職務への高い意識や積極性が確認された。これらのことから、インドネシア側の支援やオーナーシップ（プロジェクトと共に協力し、課題に取り組もうとする積極性）が醸成されているといえる。総じて、本協力をとおし、インドネシア政府、国立公園、並びに地方政府との連携の強化から効果発現が期待される。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

プロジェクトの実施プロセスや取り組みについての構想図、及び説明資料が作成されており、各セミナーやインドネシア政府、国立公園に対して説明されていることから、計画内容に対して、特に問題はないと判断される。

#### (2) 実施プロセスに関すること

ア プロジェクトと C/P との間で効果的なコミュニケーションが十分に行われなかった点は、C/P の継続的な配置が無いことへの改善がとられなかったこと、プロジェクト進捗の遅延について対応が遅れたことなどと並んで、プロジェクトの効率性に影響があった。今後、コミュニケーションを十分とることで、プロジェクトの効率化を高めることが期待される。

イ 活動レベルにおける優先付け、活動地域の共有、並びに情報の共有など活動計画の見直しにより、各々のプロジェクト成果の相乗効果を上げられることが期待される。本評価調査 JCC において、PO の改訂が提言されており、改訂後には、より効果的且つ効率的な目標の達成が見込まれる。

ウ プロジェクト活動の進捗の遅延はところどころ見られたが、活動は継続的に行われており、各々の活動の成果は、文書、調査研究報告書、データリスト、活動の経緯、協議記録や議事録などで確認できた。しかしながら、プロジェクトの有効性を明確に提示するしくみが弱かったため、プロジェクトアウトプットの達成度を基にプロジェクト目標の見込みを評価することは困難であった。今後、事業モニタリングが強化されることで、プロジェクト目標の達成度をより明確に提示できることが期待される。

### 3-5 結論

プロジェクトの投入・活動実績、アウトプット・プロジェクト目標の達成度、実施プロセス、及び評価 5 項目の観点から、質問票、インタビュー、グループディスカッション、プレゼンテーションなどの結果に基づいて、評価を行った結果、活動の実施は必ずしも計画通りに進んでおらず、全体として進捗が遅れは見られるものの、アウトプットの達成に向かって少しずつ成果をあげつつあることが明らかとなった。

特に、PDM 上のアウトプット 1.1「国立公園管理の枠組み策定」や 1.4「住民参加型活動支援」などでは、公園管理計画策定や、住民や地方自治体との協働で具体的な成果をあげつつあると判断された。結果として、本調査を通じて、プロジェクト期間終了までの約 2 年間でプロジェクト目標を達成するために必要な対策を講じるとともに、終了後の自立発展性を確保する必要があることが関係者間で認識された。これらの評価結果に基づいて、以下の提言を行うとともに、JCC において、PDM の改訂が承認された。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

(ア) 公園管理について

昨今の林業大臣令発布や公園の現状に鑑みて、従来の「閉鎖型公園管理」から、住民や地方自治体との協働による「協働型公園管理」に転換していくことの重要性について提言を行った。

(イ) プロジェクト終了に向けて

2年後のプロジェクト終了後も自立発展性を確保するための出口戦略として、プロジェクトと公園主体で実施する活動の役割分担を行うことを提言した。

(ウ) NCIC（自然環境保全情報センター）の位置づけについて

C/P 機関とはなっているが、実際の活動上の位置づけが曖昧になっている NCIC について、その役割と機能の明確化について提言を行った。

(エ) コミュニケーションの強化について

プロジェクトにおいて、C/P 側の体制の影響もあり、日本人専門家と C/P とのコミュニケーションが十分でなかった点が、プロジェクト進捗に影響を及ぼしている点が明らかになったため、定期的なミーティング等を行うことによる、コミュニケーション強化の重要性を提言した。

(オ) PDM 改訂と PO の修正について

公園の協同管理体制を重視した優先順位付け、プロジェクト終了後を見越した公園側本来業務との役割分担、そして指標の明確化を行った改訂 PDM を示し、JCC で承認された。また、2007 年 2 月末までに、この改訂 PDM に対応させる形で PO の修正を行うことを提言した。

### 3-7 フォローアップ状況

(1) 専門家の交代：

チーフアドバイザーについては 1 月末、業務調整については 3 月末、そして住民参加型活動支援については 5 月末で、順次交代になるため、その継続性を確保する必要がある。

(2) PO の見直し：

合同評価レポートの提言に記載のとおり、2007 年 2 月末までに改訂 PDM に添った形で、PO の見直しが行われる必要がある。

# 目 次

序文

プロジェクト位置図

写真

略語表

評価調査結果概要表

第1章 中間評価の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成（合同中間評価チームの構成）	2
1-2-1 日本側メンバー	2
1-2-2 インドネシア側メンバー	2
1-3 調査期間	3
1-4 プロジェクト概要	3
第2章 中間評価の方法	4
2-1 評価設問と必要なデータ・評価指標	4
2-2 データ収集方法	4
2-3 データ分析方法	5
第3章 プロジェクトの実績	6
3-1 投入実績	6
3-1-1 日本側投入	6
3-1-2 インドネシア側投入	6
3-2 活動実績	7
3-3 アウトプットの達成状況	7
3-4 プロジェクト目標の達成状況	14
3-5 実施プロセスにおける特記事項	15
第4章 評価5項目による評価結果	16
4-1 妥当性	16
4-2 有効性	16
4-3 効率性	17
4-4 インパクト	17
4-5 自立発展性	18
第5章 結論	19
第6章 提言	20
6-1 公園管理に関する提言	20
6-2 プロジェクト終了に向けた取り組み	20

6-3	自然保護情報センター（NCIC）とプロジェクトとの連携について.....	21
6-4	プロジェクト関係者間のコミュニケーション強化について.....	21
6-5	PDM 改訂と PO 修正について.....	21

#### 別添資料

1.	調査日程.....	25
2.	主要面談者リスト.....	27
3.	PDM ( Ver.01 )( 英文 ) .....	29
4.	ミニッツ ( 英文 ) .....	35
5.	質問表.....	111
6.	評価グリッドに基づくデータ収集・分析結果.....	129
7.	収集資料リスト.....	139

# 第 1 章 中間評価の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

インドネシア国（以下「イ」国）は高温多湿の熱帯性気候地帯にあり、世界有数の生物多様性の高い国として知られている。しかし、急速な人口増加や産業発展による土地需要の増加で熱帯林の伐採等、森林面積が減少し、自然環境の破壊と生物種の減少が懸念された。このため、「イ」国政府は 1991 年に「インドネシア生物多様性行動計画」(BAPI) を制定し、生物多様性の保全を推進することとした。

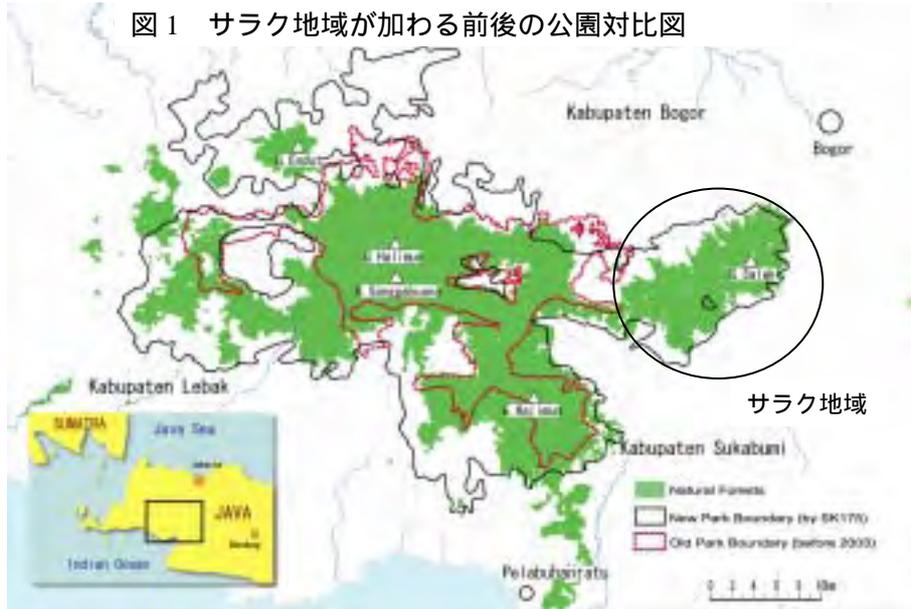
こうした状況下、1992 年に日米政府は「日米グローバルパートナーシップアクションプラン」を発表し、日米環境共同協力事業として途上国における自然資源の管理と保全のための事業をおこなうこととなり、「イ」国が対象国に選ばれた。これを受けて「イ」国政府は同国に適した生物多様性保全を図るために、我が国政府に技術協力プロジェクトと無償資金協力を要請した。この要請に基づき、技術協力プロジェクト「インドネシア生物多様性保全計画」(BCP)(フェーズ I:1995 年～1998 年、フェーズ II:1998 年～2003 年、合計 8 年間)と 1997 年に生物多様性保全に有用な施設整備などの無償資金協力を実施した。

グヌン・ハリムン-サラク国立公園（以下、GHSNP）管理計画プロジェクトは、このような背景から、2002 年「イ」国政府より、我が国に対して技術支援が要請され、2004 年 2 月から 5 年計画で実施しているものであり、上記の技術協力プロジェクト及び無償資金協力で得られた公園管理手法や生物多様性保全の技術を更に充実させるとともに、GHSNP をモデルとする公園管理手法を確立させ、そこで培われた技術を他の国立公園に対してワークショップや研修を通じて普及させることを目指している。

GHSNP は、ジャワ島の西側に位置し、首都のジャカルタから南に約 100km の場所に位置しており、国土の広大な「イ」国において、首都ジャカルタから近いながらも、手付かずの自然環境が残っている数少ない国立公園である。ジャワギボン（テナガザル）、ジャワクマタカ、ジャワヒョウなどに代表される希少動物も多く生息しており、内外の研究者の研究フィールドとして活用されている。

当初は、「グヌン・ハリムン国立公園」の名称であったが、プロジェクト開始直前の 2003 年に周辺で自然環境の価値が高いサラク地域が国立公園として指定されたため、「グヌン・ハリムン-サラク国立公園」と名称を変更し、広さも 4 万 ha から 11 万 ha へと大幅に拡大した。GHSNP は、林業省森林・自然保護総局（PHKA）の下に位置づけられ、100 名超のスタッフが管理を行い、それに加えて行政関係職員、レンジャー約 40 名を有している。大規模な違法伐採が行われているスマトラ島などと比較すれば、住民との関係は特別悪い状況とは言えないが、人口密集地帯であり、周辺はもちろん、公園内にも居住する住民が多く存在している。

図1 サラク地域が加わる前後の公園対比図



本調査では、5年間の協力期間の中間地点にある本プロジェクトの投入実績、活動実績、計画達成度を、PDM及び活動計画に基づき、調査・確認し、課題・問題点を整理する。また、JICA事業評価ガイドラインに基づき、5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価を実施し、プロジェクトが順調に成果発現に向けて実施されているのかを検証する。

かかる調査結果を踏まえ、プロジェクト後半に向けた今後の活動の方向性について関係者と協議し、提言するとともに、必要に応じプロジェクトデザインの改訂について関係者と協議を行う。そしてこれらの結果を取りまとめた合同評価表を作成する。

なお、本結果については、プロジェクト合同調整委員会（JCC）において報告し、合意事項である合同評価表をミニッツ（Minutes of Meeting）として取りまとめ、署名する。

## 1-2 調査団の構成（合同中間評価チームの構成）

### 1-2-1 日本側メンバー

No.	氏名	担当分野	所属
1	三次 啓都	総括	独立行政法人国際協力機構 地球環境部第一グループ 森林・自然環境保全第一チーム チーム長
2	堀内 洋	環境協力	環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐
3	佐々木 大吾	評価計画	独立行政法人国際協力機構 地球環境部第一グループ 森林・自然環境保全第一チーム 職員
4	宮崎 香	プログラム策定	独立行政法人国際協力機構 アジアー部第一グループ 東南アジア第一チーム ジュニア専門員
5	市川 智子	評価分析	A&M コンサルタント有限公司 コンサルティング部 シニア・コンサルタント

### 1-2-2 インドネシア側メンバー

(1) Dr. Ir. Ani Mardiasuti, M.Sc. (Leader)

Professor, Bogor Agricultural University

- (2) Ms. Ir. Emy Endah Suwarni, M.Sc.  
Head of Cooperation Section, Directorate General of Forest Protection and Nature Conservation,  
Ministry of Forestry

### 1-3 調査期間

2006年11月21日(火)から12月6日(水)の期間で調査を実施した。なお、詳細日程については、別添1に記載のとおりである。

### 1-4 プロジェクト概要

- (1) 上位目標：  
インドネシアの国立公園における生物多様性の保全とその持続可能な利用が促進される。
- (2) プロジェクト目標：  
1 GHSNP において生物多様性が適切に保全されるとともに、適切な自然資源利用が推進される。  
2 GHSNP 国立公園周辺にて JICA プロジェクトにより得られた公園管理手法に必要な知見が林業省職員や他の国立公園において共有される。
- (3) アウトプット：  
1-1 GHSNP の管理の枠組み(management framework)が、関係者の参加の下でより強化され、管理にかかる方針・戦略が多くのステークホルダーと共有される。  
1-2 公園管理に必要な、情報システム等が開発される。  
1-3 GHSNP の生物多様性調査が促進され、特にヒョウ、ジャワギボン、テナガザルの3つの希少動物が適切にモニタリング・保全される。  
1-4 地域住民参加による保全と持続的な資源利用が GHSNP のモデル地区において促進されるとともに、その経験が紹介される。  
1-5 エコツーリズム及び環境教育の推進が強化される。  
2 GHSNP の組織及び個人の能力が強化され、本プロジェクトの成果が他の国立公園職員や林業省職員と共有される。

なお、現在派遣中の長期専門家の担当分野は以下の通りである。

チーフアドバイザー / 国立公園管理  
環境教育 / 研修 / 業務調整  
住民参加型活動支援

## 第2章 中間評価の方法

本評価調査は、JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）に基づき、評価の手法としてプロジェクト・サイクル・マネジメント(Project Cycle Management：以下「PCM」)の評価手法を採用した。PCM手法を用いた評価は、1)プロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix、以下「PDM」、別添3参照)に基づいた計画達成度の把握(投入実績、活動状況、成果の達成度、プロジェクトの達成見込み)、2)「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「自立発展性」の5つの評価の観点に基づいた収集データの分析、3)分析結果からの教訓、提言のまとめの3点で構成されている。また、本評価調査はインドネシア側評価調査団員と共同で実施された。

### 2-1 評価設問と必要なデータ・評価指標

現行PDM(Ver.01)、プロジェクト・ドキュメント、実施運営総括表(半期報告書)、専門家活動報告書、その他プロジェクト関連文書の文献調査を行い、中間評価の評価項目を設定し、出発前に評価グリッドを作成した。評価指標については、現行PDM(Ver.01)に掲げられている指標を用いた。

### 2-2 データ収集方法

上述した既存資料による情報収集に加え、プロジェクト専門家とC/P、県職員、ナショナルスタッフ(プロジェクト雇用スタッフ)及び現地NGO、並びに地域住民に対する質問票を作成し、データの補足、追加情報を入手するとともに、質問票及び評価グリッドに基づきプロジェクト専門家とC/Pを含む関係者に聞き取り調査を行った。その際、必要に応じて、フォーカス・グループ・ディスカッションの形式で調査を実施した。

また、プロジェクトの住民参加型保全モデル地域(MKK地域)において、プロジェクトより選定されたスカブミ(Sukabumi)県のセルナレスミ(Sernaresmi)とキプトウイ(Cipeuteuy)の2村で住民を対象にした聞き取り調査を行った。このとき、PRA(参加型農村調査法)を活用した調査を補完的に行うことで、特に住民の認識の程度を知る手がかりとした。



MKK 活動地域の一つ、Cipteu村 Cisarua 集落における協働認識調整（社会的準備）の様子。国立公園職員、プロジェクトのナショナルスタッフ（希少種保護と MKK 活動担当）、日本人専門家により、住民と対話をしながら、話し合い（住民との協議）が行われる。本評価調査は、このプロジェクト活動時、関係者の協力を得て住民への聞き取り調査を実施した。



同集落 MKK 住民への聞き取り調査の様子。本評価調査では、質問票によるインタビュー調査を補完するために、PRA やフォーカス・グループ・ディスカッション形式で聞き取り調査を行った。

### 2-3 データ分析方法

日本側評価チームにより、インドネシア側評価チーム及びプロジェクト専門家と C/P を含む関係者に対して、PCM 手法に基づく評価方法を説明し、合意を得た後、得られたデータについて、PDM(Ver.01)に掲げた指標及び活動計画（以下、PO）の進捗計画に比較し、進捗度合いを確認した。また、評価5項目に関する分析については、JICA 評価ガイドラインの5項目評価の視点から判断するとともに、評価グリッドに設定した判断基準を基に、インドネシア側評価チーム及びプロジェクト専門家と C/P を含む関係者と協議を行い、評価結果の分析を行った。

## 第3章 プロジェクトの実績

### 3-1 投入実績

#### 3-1-1 日本側投入

##### (1) 長期専門家

長期専門家として、1)チーフアドバイザー/国立公園管理、2)住民参加型活動支援、3)環境教育/研修/業務調整の担当分野において、累計3名(99M/M)が派遣された。派遣時期、専門分野及び技術の面において適切であった。

##### (2) 短期専門家

短期専門家については、累計8名(10M/M)が派遣された。担当分野は、1)社会経済調査、2)エコツーリズム、3)希少種保護、4)協働管理計画、5)国立公園情報サービスシステム評価、6)生産活動インベントリ調査の6分野である。派遣時期、専門分野及び技術の面において適切であった。

##### (3) 日本でのカウンターパート研修

現在までに、12名のC/Pが、主に「国立公園管理計画政策」の研修を日本で受講している。特に、県や林業省保護総局の準高級職員に対する研修については、研修を通して国立公園管理に対する受講者(準高級職員)のモチベーションが向上したなどの成果がみられた。

##### (4) マレーシア国サバ州における研修

国立公園職員7名がマレーシア国サバ州において国立公園レンジャー交換プログラム研修を受けた。受講者は研修に対して満足しており、言語や自然環境に共通点の多いマレーシアでの研修実施は適切であった。

##### (5) 機材供与

2006年11月時点で、合計約30,663,000円(2006年度末見込み)の機材が供与された。供与された機材の仕様、量、及び供与時期については全体的に適切であった。

##### (6) 日本側負担の現地業務費

2006年11月時点で、合計約100,179,000円が供与された。日本側負担の現地業務費の投入内容等はほぼ適切であった。

#### 3-1-2 インドネシア側投入

##### (1) カウンターパートの配置実績

2006年11月時点までのインドネシア側C/Pの配置累計は33名(575M/M)であった。しかしながら、不安定なC/Pの配置はプロジェクト活動の進捗に影響を及ぼした。

## (2) インドネシア側の予算支出

インドネシア政府から、国立公園管理に対して合計約 10,180,792,000Rp. ( 130,212,000 円 ) の予算が配分されている。但し、この内のどの程度がプロジェクト運営費用に相当するのかは内訳が存在しないため詳細は確認できなかったが、国立公園管理予算は確保されている。

## (3) インドネシア側からの土地、事務所や施設の供与

インドネシア政府からボゴール市にある林業省保護総局(PHKA)地方事務所内の一部がプロジェクト事務所として提供されている。

## 3-2 活動実績

PO に記載された多くの活動が開始されてはいるものの、ほとんどの活動は PO 上のスケジュールと比べて進捗が遅れている状態である。いくつかの活動においては、さまざまな成果品の作成等の活動が実施されているが、全体的な活動の進捗の遅れを取り戻すだけの有効な対策については、いまだ不十分な状況にある。しかしながら、質問票やインタビューの集計結果によると、C/P はプロジェクトの進捗に対して高い関心を示していることから、これらの活動が継続的に実施されていけば、今後ある程度の達成度があると判断することができた。

## 3-3 アウトプットの達成状況

### (1) アウトプット 1-1 国立公園管理の枠組み策定

PDM(Ver.01)上の指標に基づくアウトプット 1-1 の成果は複数確認された。まず、ステークホルダーの参加については、PDM(Ver.01)上には地方自治体の参加についての記載はないが、プロジェクトにより各種セミナーが開催されており、複数のステークホルダー（関連機関）の参加が見られた。

また、聞き取りや面談の結果より、以下のアウトプット達成度をより明確に示す図や計画書のドラフト段階の資料を確認できた。

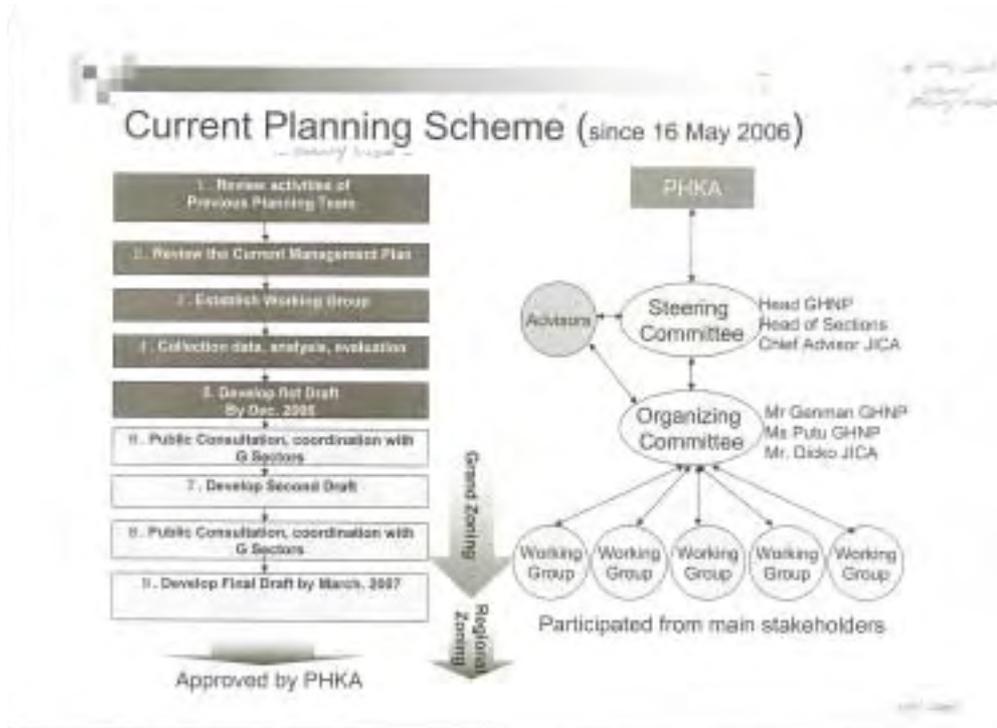
ア 活動実施チーム体制図

イ 管理計画策定のプロセス図（図 2 “Current planning scheme”）

ウ ドラフト中の公園管理計画の枠組み（Drafting of planning frame work）

活動実施チームの形成と公園管理計画策定のプロセス図（以下、スキーム）は、公園管理計画策定に貢献するものであり、アウトプット 1-1 の達成を実証する成果と見なされる。「活動実施チーム」はプロジェクト活動の戦力となり、「スキーム」は公園管理計画策定に至るまでのプロセスを表しており、管理計画策定に至る基礎である。プロジェクト中間時点において、公園管理計画の枠組がドラフトの段階にあり、今後、「スキーム」にあるプロセスに沿って計画的に策定されることにより、アウトプットの達成が期待される。

図2 管理計画策定のプロセス図



## (2) アウトプット 1-2 情報システム整備

PDM(Ver.01)上の指標の 1.2a、1.2b、及び 1.2c に基づくアウトプット 1-2 の達成状況は、主に、GIS と他のアプリケーションによりデータ加工された植生図、動植物分布図等を含む地図情報、データベース等で確認することができた。プロジェクトでは、活動実施チームにおいてデータ処理やレイアウトが施され、データリストが作成されており、情報システムが一定レベルで利用可能な状況に整備されている。(ここでいう、「情報システムが整備された」状態とは、調査研究により必要な基礎データが揃い、データベース化された後、GIS などで加工・レイアウトされ、さらに、目的に従ってデータが活用され、且つ、様々な計画に活用されている、ことを指す。)さらに、この情報システム整備は、ゾーニング、MKK 活動、希少種保護のモニタリング、エコツーリズムなど、他のプロジェクト活動分野に必要な情報を提供するものである。(表-1 参照)

聞き取りや面談の結果より、アウトプット達成度をより明確に示す以下の成果を確認できた。

ア 活動実施チーム体制図

イ GHSNP データ管理システム図 (“Data management system at GHSNP”)(図 3)

ウ データリストと管理状況(表-1)

活動実施チームとデータ管理システムは、情報システム整備に貢献する要因であることから、アウトプット 1-2 の達成を実証する成果とみなされる。「活動実施チーム」はプロジェクト活動の機動力となり、「データ管理システム」はより効果的な情報システム整備のための枠組みの一つとなる。データと管理状況を示したリストには、国立公園管理計画策定のために有効な情報を提供するとともに、情報システムの運営管理状況を示している。例えば、上記内のデータリスト(表-1 参照)は、ユーザーが使用目的や使用課題に応じたデータを探しやすいような表示となっている。以上のことから上記ア、イ及びウの 3 つの成果は情報システム整備の達成に十分に貢献することから、アウトプット 1-2 の達成状況は、現時点では、十分なものであるといえる。

図3 GHSNP データ管理システム図

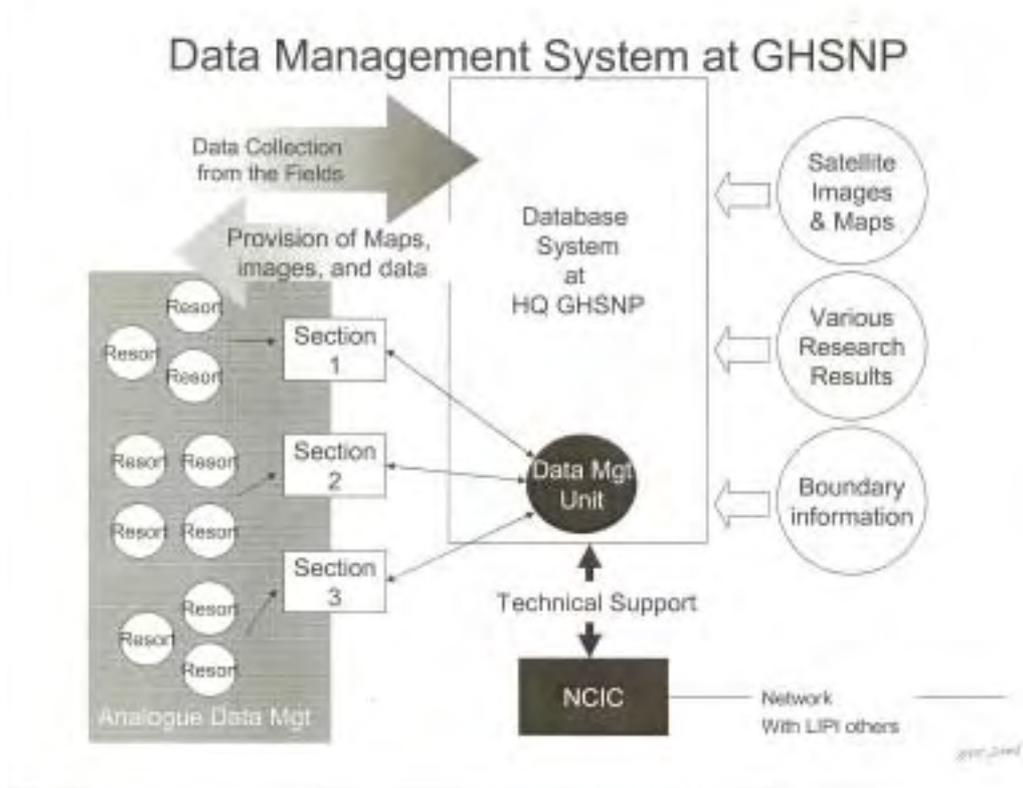


表1 データリストと管理状況 (一部)

List Production of map on GHSNP MP-JICA GIS Unit since 2004 - 2006.

No	Map Title	Ordered Group	Source Material	Layout	NP Management plan/Keirei	MKK	ES Conservation	Env Education	Ecotourism
1	Peta Batas Administrasi Kawasan Koridor THGHS	Endangered Species	Berkonvensional Vektor		X		X		
2	Peta Batas Administrasi Kawasan Koridor THGHS	Endangered Species	Bonus: Berkonvensional Vektor		X		X		
3	Peta Seputih Sasaran Kawasan Koridor Halimau-Salak THGHS	Endangered Species	Berkonvensional vektor		X		X		
4	Peta Titik lokasi Survey Teas Burung Kerdus Halimau-Salak THGHS	Endangered Species	Bonus:		X		X		
5	Peta Cetak Hasil Kawasan Koridor Halimau-Salak THGHS	Endangered Species	Berkonvensional Vektor THGHS Mesh Map		X		X		
6	Peta Kelangkaan (Elevasi) Kawasan Koridor Halimau-Salak THGHS	Endangered Species	Berkonvensional Vektor Digital Elevation Model (DEM)		X		X		

注) 1. リストのタイトルは正しくは、List Products of Resource Maps on GHSNP MP-JICA Unit since 2004-2006 のことを示す。  
 2. ユーザーが使用目的や使用課題に応じたデータを探しやすいような表示となっており、他のプロジェクト活動や計画に応用が可能なデータであることがわかる。

### (3) アウトプット 1-3 希少種保護とモニタリング

PDM(Ver.01)上の指標に基づき評価をすると、アウトプット 1-3 の達成状況を明確に検証することは困難であった。しかしながら、アウトプット達成度を示す幾つかの文書や図表が確認された。それらを、以下に示す。

- ア 活動実施チーム体制図
- イ 情報システム整備により整備された希少種保護やモニタリングに応用可能な情報やデータリスト(表-1 参照)
- ウ グヌン・ハリムン-サラク国立公園コリドーに係る調査結果  
( Study results of corridor in GHSNP )
- エ モニタリング方針や計画

活動実施チームの形成とデータリストは、希少種保護に関連する活動を促進するものであり、アウトプット達成を実証する成果とみなされる。「活動実施チーム」はプロジェクト活動の機動力となり、「データリスト」は、活動実施チームの活動の情報源となる。さらに、モニタリング方針や計画は、アウトプット達成の基盤となる枠組みであり、これらの成果を機能的に統合することで、より効果的且つ効率的にアウトプット達成が促進されると思われる。

さらに、指標 1.3c については、MKK 活動地域において住民への聞き取り調査とフォーカス・グループ・ディスカッションを行った際、MKK 活動に参加している住民の希少種についての「認識」が確認された。現時点の、MKK 活動では希少種保護を直接の活動にはしていないが、住民(MKK 活動関係者)は、自然資源の重要性について認識しており、希少種についての情報を提供することで希少種保護についての意識は高まるとと思われる。(別添 5 参照)

以上により、総合的なプロジェクトの活動の取り組みの下、より効果的且つ効率的に希少種保護活動が行われれば、確実なアウトプットの達成が期待されると思料される。

### (4) アウトプット 1-4 住民参加型活動支援

PDM(Ver.01)上の指標に基づき評価をすると、MKK 地域における荒廃地の森林回復のための植林活動の実数、面積、対象樹種や共同パトロールの回数(Joint Observation Activities)、住民経済動向調査(実施数)についての成果がプロジェクトより明確に提示されており、高いアウトプットの達成度が確認できた。また、PO と照合しても、活動の進捗状況はほぼ予定通りである。これらの理由により、他のアウトプットの達成度と比べ、アウトプット 1-4 の達成度は極めて高いといえる。

さらに、聞き取り調査や面談の結果より、幾つかのアウトプット達成度をより明確に示す文書や図表が確認された。それらを以下に示す。

- ア 活動実施体制図(活動実施チーム含む MKK system chart)
- イ MKK 活動プロセス表

- ウ 情報システム整備により整備された応用可能な情報やデータリスト（表 1 参照）
- エ 地域住民と所得向上に係る調査（報告書作成中）（“Inventory of Local Residents for Income Generation around GHSNP”（on documenting））
- オ グヌン・ハリムン-サラク国立公園内周辺における社会経済調査（“Socio Economic Survey in/around GHSNP”（Japanese language /Indonesian language））

活動実施チームの形成、MKK 活動プロセス（参加型による社会的準備（協働認識調整）と MOU のための協議プロセスを含む）は住民参加型保全に資するものである。「活動実施チーム」はプロジェクト活動を実践する際の戦力となるものである。実際、協議認識調整として行ってきた参加型による社会的準備と MOU（Memorandum of Understanding）のための協議プロセスは MKK 活動の促進要因となってきた。これらのことより、以上の成果は、アウトプットの貢献要因とみなすことができる。

さらに、MKK 活動プロセス、住民経済動向調査など各種調査結果含め、GIS データは MKK 活動の重要な基礎情報となり、プロジェクト中間時点におけるアウトプット 1-4 の達成度を示す成果である。

#### (5) アウトプット 1-5 エコツーリズム、環境教育及び広報の強化

PDM(Ver.01)に設定されている指標に基づき評価すると、各々のプロジェクト活動の結果により産出された幾つかの成果を確認することができたため、アウトプット 1-5 はほぼ達成されつつあると判断できる。

特に、環境教育プログラムは MKK 活動地域において優先的に行われており、アウトプット達成度をより明確に示す幾つかの図表や教材及び広報パンフレット等を確認できた。なお、環境教育プログラムの教材は、本プロジェクト前に実施された BCP プロジェクトからの教材を更新・活用しているものである。

- ア 活動実施チーム体制図
- イ エコツーリズムアクションプラン（ドラフト）  
（“Draft of Ecotourism Action Plan of GHSNP”）
- ウ 広報と情報サービスに係る戦略計画  
（“Strategic Plan for Promotion and Information Service of GHSNP”）
- エ 広報関連資料
- オ 環境教育教材（図 4）

他のアウトプット達成で見られる成果と同様に、活動実施チームの形成はプロジェクト活動を実践する際の戦力となるため、アウトプット達成を実証するための成果とみなされる。アクションプラン、戦略計画、広報資料や環境教育プログラム教材は、アウトプット達成に資するツール（手段）として有用であると認められる。

環境教育教材や広報資料は、MKK 活動における重要な手段の一つでもあり、アウトプット 1-5 の有力な成果の一つと見なされる。よって、以上の成果は、アウトプット達成に対する貢献要因といえる。

図4 環境教育教材など(一部)



(6) アウトプット 2 組織及び個人の能力が強化され、本プロジェクトの成果が他の国立公園職員や林業省職員と共有される

PDM(Ver.01)に設定されている指標に基づき評価をすると、指標 2.1a や指標 2.1c に対応する実績は、本邦 C/P 研修を含む各種研修や OJT (On the Job Training : 実地研修) の実施である。指標 2.1b や指標 2.2a の研修モジュールは現在構築中であるため、プロジェクトの中間時点ではその内容や数もしくは有用性を未だ確認することは出来ない。部分的な成果は確認されたが、成果記録や整理されたデータが少なかったため、アウトプット 2 の達成度を十分に確認することは困難であった。但し、アウトプット 2 に対応する各活動は継続して実施されているため、今後の成果が期待され、指標 2.2b で評価できる研修結果や教訓については、他の国立公園に今後手法や知見を普及・技術移転させることが可能であると思料される。

3-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の 1 と 2 に対応する PDM(Ver.01)上の指標に基づき評価をした場合、関連する文献や報告書がドラフトの段階であり、プロジェクトの中間時点ではプロジェクト目標の達成状況を明確に評価することは困難であった。

しかしながら、指標の一つである "Public understanding/appreciation for GHSNP and its management" について、MKK の住民、県職員、国立公園職員、C/P からの聞き取り調査の結果よ

り、プロジェクト活動（例えば MKK 活動）に対する積極性やオーナーシップの高さが確認された。加えて、3-3 で説明したとおり、プロジェクト活動の結果、アウトプットの達成に寄与する成果として、ドラフト中の計画の枠組（フレームワーク）や計画書作成のプロセス図（スキム）等が確認されており、プロジェクト終了時においてプロジェクト目標はほぼ達成される見込みはあると思料される。

### 3-5 実施プロセスにおける特記事項

PO 上のプロジェクト活動の進捗状況を見る限り、ほとんどの活動が予定どおりには実施されていないかった。聞き取り調査から、進捗が遅れている活動に対して報告や相談などが適切に行われた経緯もなかったことが確認された。加えて、プロジェクトが直面している進捗状況や課題を共有するための合同調整委員会（JCC）は 2004 年 10 月以降 2 年以上も開催されていない。こうした状況を改善するためには、実施プロセスにおいて、プロジェクト全体の実施状況や各活動の実施状況を管理するためのプロジェクトのモニタリングを行うことが、プロジェクトをより効果的且つ効率的に行うためには必要である。

しかし 2006 年 10 月には、グヌン・ハリムン-サラク国立公園において、新所長が任命され、公園事務所所長及び本プロジェクトの C/P として着任しており、この人事により、内部及び外部における連絡体制が確立され、より効果的なコミュニケーションの促進が期待されている。さらに、新所長の下で国立公園管理体制が強化され、本プロジェクトの実施が円滑に進捗することが期待される。

## 第4章 評価5項目による評価結果

### 4-1 妥当性

プロジェクト目標は、以下のインドネシア国のアクションプランや法制度において一致している。

- ・1991年 生物多様性行動計画（BAPI）
- ・2004年10月発布 保護地域にかかる協働管理林業大臣令（19号）
- ・2006年9月発布 ゾーニングにかかる林業大臣令（56号）

また、プロジェクト目標は、JICAの協力方針である国立公園管理能力の強化を含む生物多様性保全及び生態系保全とも一致する。

さらに、受益者のニーズについては、次に述べる点で一致する。2003年にサラク地域が加わり拡張後のグヌン・ハリムン サラク国立公園内周辺地域には、多様な文化、地域コミュニティを持つ地域住民が居住している。現在、公園内の土地は住民によりいったん開墾されたものの、その後生産活動が禁止されたことなどから放置され、そのための森林資源の減少、さらに森林資源の減少に伴う（と考えられている）水資源等の枯渇、土壌劣化等の課題に直面している。MKKの住民に対する聞き取り調査やプロジェクトによるMKK活動対象集落での住民との協議を視察した結果、住民は住民自身では効果的な対策を見出すことができない状況にあり、国立公園職員やプロジェクトになんらかの協力を求めていることが確認できた。現時点では、地域住民や地方行政機関などのステークホルダーと公園の協働管理を行うこと以外に、公園内周辺地域居住地に対応する方策は当たらない。以上のことから、協働管理に向けたプロジェクトの方向性は、利害関係者ニーズに合致している。

### 4-2 有効性

プロジェクト実績に対する評価結果に基づき活動とアウトプットの達成度をみる限り、プロジェクト中間時点において以下の3点の理由で、プロジェクト目標の達成は見込まれる。

#### (1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標に対するPDM(Ver.01)上の指標からは、明確な達成度はわかりにくいですが、3章で言及した各々のアウトプット達成に寄与する具体的な成果が確認されていることから、プロジェクト活動が継続して行われることで、本プロジェクト終了時までには成果を達成し、プロジェクト目標の達成に貢献すると判断される。

#### (2) プロジェクト目標に対する成果の貢献

アウトプット1-1から1-5及び2は、「生物多様性保全」や、「持続可能な自然資源の利用」、並びに「関係者の能力向上」など、プロジェクト目標に直接貢献する要因を含んでいる。よって、

アウトプットの成果達成によりプロジェクト目標は達成されることが見込まれる。

### (3) 外部条件

PDM(Ver.01)上ではアウトプットに呼応する外部条件は特に記載されていないことから、アウトプットの成果達成によるプロジェクト目標の達成に問題はないと判断される。

## 4-3 効率性

プロジェクトの投入、活動、及びアウトプットの実績状況より、プロジェクトの効率性については、以下の点で中程度と評価される。

### (1) 活動とアウトプットの実績

タスクフォースチーム（Working Team Unit）/活動実施チームの形成とチームによる活動は継続的に行われてきた。また、短期専門家を多く投入する代わりに現地関係者の協力を得ることで現地人材の有効な活用ができた。さらに、GHSNP 自身の取り組みとも一致し、現地資源を最大限に活用がすることができた。

### (2) インドネシア国による投入

投入実績によると、不安定な C/P の配置はプロジェクト活動の進捗に影響を及ぼしたがインドネシア側からの投入は概ね適切であった。

聞き取り調査の結果から、投入の質、量、時期は適切に行われたことが確認され、本プロジェクトの効率性は高いと評価される。同様に、国立公園職員（本部、地域部、駐在署）の活動に対する高い意識や積極性を確認できており、これらはプロジェクトの効率性を上げる要因となることが思料される。このように、プロジェクトの貢献・促進要因を効果的に活用することで、より高いプロジェクトの効率性が期待できる。

## 4-4 インパクト

GHSNP は現在、インドネシア国の 21 のモデル公園の一つに選定されており、生物多様性保全や持続可能な自然資源の利用を目指した国立公園管理において、有用な経験、知識、管理手法などを他の国立公園と共有されることが期待されている。特に、当プロジェクトが焦点を当てている MKK 活動及び協働公園管理に関する活動は、他と共有すべき経験、知識を提供すると考えられる。

現在プロジェクトはモデル地域を設定しており、優先的な活動を行うことによる住民間でのねたみや衝突（社会・文化面における地域社会への負のインパクト）が危惧されている。これまでの合意形成の過程における、住民との協議（対話）による社会的準備（協働認識調整）を継続的に行いながら、地域社会への負のインパクトを配慮する対策が重要であると思料される。

#### 4-5 自立発展性

本評価調査において、(1) 制度面、(2) 財政面、及び(3) 技術面における自立発展性の期待できる複数の要因が見出された。

##### (1) 制度面

国立公園管理計画策定は、ドラフト作成の段階であるが、GHSNP 並びにプロジェクトにとっても多くのステークホルダーとの連携と協力を促進する計画を含むものであり、貢献要因の一つといえる。さらに、現在、GHSNP は、インドネシア国の中でもモデル国立公園に選定されており、このことから、今後の自立発展性は確保されている。

##### (2) 財政面

特に、地方自治体( 県政府 )との協働管理における協力体制が構築されており、県の予算を MKK 及び他のプロジェクトアウトプットにおいて効果が期待される関連活動に割り当てることを予定している。合計約 130,212,000 円がインドネシア国政府から配分されており、どの程度がプロジェクト運営費用に相当するのか資料等は存在しないものの、公園予算の確保が認められている。

##### (3) 技術面

プロジェクトでは、情報システム、希少種保護のためのモニタリング活動など、幾つかの重要な活動が継続されている。特に、MKK 活動と地方自治体との協働公園管理計画は、大きな貢献要因となり得る。例えば、GHSNP において MKK の取り組みや住民との協働認識調整 (MOU 設定および協議、コンセプト形成会合、協働活動推進ワークショップなど) の方法が他のインドネシア国のモデル国立公園へ応用できることから、これらの活動の効果が期待できる。

従って、本プロジェクトにおいては、以上の幾つかの自立発展性が期待できるものであり、プロジェクトの自立発展性の見通しは高いと判断される。

## 第5章 結論

投入・活動実績、アウトプット・プロジェクト目標の達成度、実施プロセス、及び評価 5 項目の観点から、質問票、インタビュー、グループディスカッション、プレゼンテーションなどの結果に基づいて、評価を行った結果、活動の実施は必ずしも計画通りに進んでおらず、全体として進捗が遅れは見られるものの、アウトプットの達成に向かって少しずつ成果をあげつつあることが明らかとなった。

特に、アウトプット 1.1「公園管理体制」や 1.4「住民参加による保全活動」などでは、公園管理計画策定や、住民や地方自治体（PEMDA）との協働で具体的な成果をあげつつあると判断された。

加えて、評価結果に基づくと、上記のアウトプット 1.1「公園管理体制」や 1.4「住民参加による保全活動」の達成を持続的かつ促進的な要因として、具体的には以下にあげるような有用な教訓、知識や技術等をインドネシア国内の他の国立公園と共有するとともに、広め得ることが可能であると思われる。

多くのステークホルダーと協働する GHSNP 管理計画による公園管理モデル

MKK

データベースや GIS を含む情報システム

エコツーリズム政策と環境教育活動

希少種モニタリング

公園スタッフの能力強化

本調査を通じて、プロジェクト期間終了までの約 2 年間でプロジェクト目標を達成するために必要な対策を講じるとともに、終了後の自立発展性を確保する必要があることが関係者間で認識された。また、これらの評価結果に基づいて、次章の提言が合同評価調査団から提案され、承認された。

## 第6章 提言

### 6-1 公園管理に関する提言

プロジェクトは、現在の「国家（による）公園管理システム(state park management system)」から、公園管理に対して、地域住民や地方行政などの関係者の積極的参加を促す「協働型公園管理システム(collaborative park management system)」により重点を置くべきである。

プロジェクト開始以降、PHKA は、2つの林業大臣令（2004年19号、2006年56号）に反映されているとおり、国立公園管理に対する関係者の関与に重点を置く政策を採用してきている。言うまでもなく、住民居住地域に囲まれた公園において生物多様性を保全するためには、地域住民と地方政府は、観光業、水源管理、自然災害などの公園が有する経済・環境の機能の面で利害関係にある。その中では、住民の理解と参加が必要であるとともに、地方政府との協働体制を作り出すことが重要である。2003年にグヌン・ハリムン国立公園（GHNP）がサラク地域を含めた公園として拡張されて以来、GHSNP内の居住者の生計が公園内の自然資源に依存しているという状況下で、プロジェクトは自然資源を保全する方策を開発してきた。加えて、県行政が地域居住者の社会福祉に責任を有している限り、スカブミ県、レバック県、そしてボゴール県の周辺3県がGHSNPのパートナーであるということが認識されてきた。

この状況の中、プロジェクトは、地域住民の社会福祉を確保するための試行実施として、MKKを通じ、公園管理における、住民の参加を促進してきた。これは、「国家（による）公園管理システム(state park management system)」から「協働型公園管理システム(collaborative park management system)」へのパラダイム転換と言える。プロジェクト期間の後半においては、パートナーシップのメカニズムとツールを強化し、MKK、公園管理計画策定やゾーニング管理を含めた管理体制を支援するため、GHSNPの組織体制の強化に更なる努力を行うべきである。

### 6-2 プロジェクト終了に向けた取り組み

プロジェクトは、プロジェクト終了までの今後2年間で、その運営を公園当局に、段階的に移譲していくべきである。プロジェクトの後半においては、本調査団によって改訂が提案されたPDMであるPDM(Ver.02)に記載のアウトプット1.1、1.4、2.2などの公園管理体制によりターゲットを絞った活動が期待される。GHSNPが全国から21ヶ所が選ばれたモデル国立公園の1つであることから、公園管理計画に関する戦略や方法などの公園管理計画の策定が重要である。さらに、この公園管理計画は、上記6-1に言及されている「協働型公園管理システム(collaborative park management system)」を適用すべきである。その間、その他のアウトプットに関する活動は、プロジェクトからの技術的・予算的な支援を受けつつ、公園当局のイニシアティブによって推進されるべきである。今回の評価作業を通して言えることとして、C/Pの能力や主体性が、OJT研修によって高められることがあるが、これらの能力は、アウトプットを達成するために必要な活動のマネジメントに反映されると思われる。

### 6-3 自然保護情報センター（NCIC）とプロジェクトとの連携について

プロジェクト活動に対しての、NCIC の役割と機能が明確化されるべきである。NCIC の主要な権限は、国立公園間の情報収集と伝達である。本プロジェクトにおいては、NCIC は C/P 機関として、基礎的なデータ情報システム利用のための C/P 研修や公園におけるデータや情報の更新とともに、他の国立公園に対して蓄積された経験や知見を伝達することが期待されている。しかしながら、NCIC の機構改革以来、プロジェクトに対する存在感や機能は弱体化してきていると見受けられる。また、配置された C/P の数も減少してきている。

NCIC はプロジェクト活動のアウトプットを広めるという重要な役割を担う機関であることから、NCIC の積極的な参加が期待される。今後は、NCIC とプロジェクトの双方が、プロジェクトにおける NCIC の位置付けを明確化するための協議を始めるべきである。

### 6-4 プロジェクト関係者間のコミュニケーション強化について

プロジェクト運営をさらに効果的・効率的にするため、関係者間のコミュニケーションが強化されるべきである。

現状のコミュニケーションが弱い例として、評価結果が示すとおり、C/P、日本人専門家そしてナショナルスタッフ間で、プロジェクト活動の進捗に対しての認識が異なる点があげられる。それぞれの活動はプロジェクトデザインの下で、密接に関わり合っているが、個々の活動への異なった認識や理解が、プロジェクトの効率や効果に影響した可能性があると言える。さらに、上記 6-1 で記載のとおり、地方行政との連携強化を図る上では、公園県事務所（section）や公園派出所（resort）の公園スタッフが行っている行政と向かい合っの業務をより推進する必要がある。これを支援するためにも、公園当局内のコミュニケーションの促進は、地方行政との協働管理について、共通理解や効果的決断を行うために欠かせないものである。

関係者間のギャップを埋め、効果的な協働管理を運用していくために、定期的なミーティングやプロジェクト活動に関する協議を実施することが重要である。

### 6-5 PDM 改訂と PO 修正について

中間評価の結果、上記の 4 つの提言、並びに林業大臣令（2006 年 56 号）の発布を含めて、プロジェクトを取り巻く最近の状況変化に基づき、合同評価チームとして、現行の PDM(Ver.01)を PDM(Ver.02)（別添資料 4 Annex14 及び 15）へと改訂することを提言した。同時に、この PDM 改訂を反映し、2007 年 2 月末までに、プロジェクト関係者間での協議の上で、PDM(Ver.02)と上記の提言に対応させるための PO 修正が必要である。なお、本改訂に関する説明は以下の通りである。

### (1) 改訂の理由

まず、現行の PDM(Ver.01)においては、地方行政や地域住民が、公園管理に関しての重要な関係者として必ずしも明示されていないことがある。2点目は、2009年1月をもってプロジェクトは終了することから、プロジェクト終了への道筋を付けるために、アウトプットの優先順位付けと公園当局の責任の明確化を行う必要がある。最後に、評価をするための、プロジェクト目標やアウトプットに対応する指標の多くが、十分な計測結果を導き出せないためである。

### (2) PDM(Ver.01)と PDM(Ver.02)の比較と変更点

最初の点として、PDM(Ver.02)は、地方行政と地域住民が重要な関係者として位置付けられている。加えて、アウトプットの優先順位付けと公園当局の責任の明確化という観点から、アウトプット2や活動の文言がより実務的かつ具体的になるように改訂されている。例えば、アウトプット2については、その意味をより明確化する観点から、2つのアウトプットに分割している。さらに、プロジェクト目標やアウトプットの指標については、より明確で計測可能になるように改訂されている。

### (3) 改訂により期待される効果

PDM改訂の結果として、プロジェクトは、プロジェクト活動として公認されたものとして、地方行政や地域住民などの関係者との協働が可能になることが期待されている。加えて、アウトプットの優先順位や公園当局の責任の明確化は、プロジェクトの終了に向けて、プロジェクト活動の自立発展性を高めるものと言える。さらに、プロジェクトがその進捗や達成度のモニタリングを行う際に、プロジェクトの現状に即した確認が可能になる。

## 別添資料

- 1：調査日程
- 2：主要面談者リスト
- 3：PDM(Ver.01)（英文）
- 4：ミニッツ（英文）
- 5：質問票
- 6：評価グリッドに基づくデータ収集・分析結果
- 7：収集資料リスト

## 調査日程

NO.	日付	曜日	官団員	評価分析団員	宿泊
1	11月21日	火		<ul style="list-style-type: none"> <li>1125 東京発 (By JAL 725)</li> <li>1650 ジャカルタ着</li> </ul>	ジャカルタ
2	11月22日	水		<ul style="list-style-type: none"> <li>0830 JICA インドネシア事務所との打ち合わせ</li> <li>1000 ボゴールへ向けてジャカルタ発</li> <li>1300 プロジェクト専門家、スタッフとの打ち合わせ</li> <li>1500 中間評価調査の手法、スケジュールについての説明</li> </ul>	ボゴール
3	11月23日	木		<ul style="list-style-type: none"> <li>0830 GHSNP 本部 (Kabandungan) に向けてボゴール出発</li> <li>1100 プロジェクト C/P へのインタビュー</li> </ul>	MKK site in Sukabumi
4	11月24日	金		<ul style="list-style-type: none"> <li>0900 MKK サイト (Sinarcsmi 村) での地域住民へのインタビュー</li> <li>1400 スカブミ県庁 (Pelabuhan Ratu) スタッフへのインタビュー</li> </ul>	スカブミ (Pelabuhan Ratu)
5	11月25日	土		<ul style="list-style-type: none"> <li>0900 MKK サイト (Cipeuteuy 村) での地域住民へのインタビュー</li> <li>1500 ボゴールに向けて出発</li> </ul>	ボゴール
6	11月26日	日		<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析とレポート作成</li> </ul>	ボゴール
7	11月27日	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1125 東京発 (JAL 725)</li> <li>1650 ジャカルタ着</li> <li>1930 JICA インドネシア事務所スタッフとの打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0900 プロジェクト専門家、スタッフ、外部専門家へのインタビュー</li> </ul>	ジャカルタ / ボゴール
8	11月28日	火	<ul style="list-style-type: none"> <li>0830 JICA インドネシア事務所及び専門家 (プロジェクト専門家、林業省配属の秀田専門家) との打ち合わせ</li> <li>1030 日本大使館への表敬</li> <li>1330 林業省森林・自然保護総局への表敬</li> <li>1530 ジャカルタ発</li> <li>1630 ボゴール着</li> <li>1700 GHSNP 所長及びインドネシア側調査団員との打ち合わせ*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0900 データ分析とレポート作成</li> </ul>	ボゴール
			<ul style="list-style-type: none"> <li>1800 プロジェクト専門家及び評価分析団員との打ち合わせ</li> </ul>		
9	11月29日	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>0730 GHSNP 本部 (Kabandungan) に向けてボゴール出発*</li> <li>1130 GHSNP 本部着*</li> <li>1300 GHSNP 所長からのプレゼンテーション及びプロジェクトに関する協議*</li> <li>1500 プロジェクト C/P へのインタビュー*</li> <li>1800 プロジェクト専門家との協議*</li> </ul>		GHSNP ゲストハウス (Kabandungan)

10	11月30日	木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0600 MKK サイト (Cipeuteuy 村) の現地調査 *</li> </ul> <p>&lt;三次団員、佐々木団員、市川団員及びインドネシア側評価団員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 スカブミ県庁 (Pelabuhan Ratu) へ向けて出発 *</li> <li>・1100 スカブミ県知事及び県庁スタッフとの協議 *</li> <li>・1400 GHSNP スカブミ県事務所 (Sukabumi Section Office) での C/P へのインタビュー *</li> <li>・1600 ボゴールに向けて出発 *</li> </ul> <p>&lt;堀内団員及び宮崎団員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 チカニキに向けて出発</li> <li>・1100 チカニキにおけるエコツーリズム現地調査</li> <li>・1600 ボゴールに向けて出発</li> </ul>	ボゴール
11	12月1日	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 評価結果に関する団内協議</li> <li>・1130 評価結果及び PDM 改訂に関するプロジェクト専門家との協議</li> <li>・1400 評価結果及び PDM 改訂に関する C/P 及びインドネシア側評価団員との協議 *</li> <li>・1700 合同評価レポート作成 *</li> </ul>	ボゴール
12	12月2日	土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 合同評価レポート作成 *</li> <li>・1400 プロジェクト専門家との協議</li> <li>・1600 合同評価レポート作成 *</li> </ul>	ボゴール
13	12月3日	日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 合同評価レポート作成 *</li> <li>・1400 合同評価レポートに関するプロジェクト専門家との協議 *</li> <li>・2000 合同評価レポートドラフトのプロジェクト関係者への配布 *</li> </ul>	ジャカルタ
14	12月4日	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0900 合同評価レポート作成 *</li> <li>・1030 合同評価レポートに関する林業省秀田専門家 (個別専門家) との打ち合わせ</li> <li>・1530 林業省森林・自然保護総局長 (Mr. Arman Mallolongan) を含む C/P との協議 *</li> </ul>	ジャカルタ
15	12月5日	火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0830 合同評価レポートに関する関係者との最終調整協議 *</li> <li>・1400 合同評価レポートの最終取りまとめ *</li> <li>・1830 林業省森林・自然保護総局保護区局長 (Mr. Banjar Yulianto Laban) を含む C/P との JCC 実施にかかる打ち合わせ</li> </ul>	ジャカルタ
16	12月6日	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1000 プロジェクト合同調整委員会 (JCC) 開催 (場所: 林業省) *</li> <li>・1200 合同評価レポートに関するミニッツ署名 *</li> <li>・1230 調査団主催レセプション</li> <li>・1400 日本大使館への方向 k</li> <li>・1530 JICA インドネシア事務所への報告</li> </ul> <p>&lt;堀内団員及び市川団員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2235 ジャカルタ発</li> </ul> <p>&lt;三次団員、佐々木団員及び宮崎団員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別案件の調査を継続</li> </ul>	

\* : インドネシア側評価団員が同行/確認

主要面談者リスト

【在インドネシア日本国大使館】

河口 大二 書記官

【JICA インドネシア事務所】

花里 信彦 次長

岩井 伸夫 職員

【グヌン・ハリムン・サラク国立公園管理計画プロジェクト日本人専門家】

三浦 金徳 チーフアドバイザー

小林 浩 業務調整／環境教育／研修

豊田 武雄 住民参加型活動支援

【日本人専門家（個別専門家）】

秀田 智彦 生物多様性保全

【インドネシア側合同評価メンバー】

Mrs. Ani Mardiasuti Professor, Bogor Institute of Agriculture

Mrs. Emy Endah Suwarni Secretariat of Directorate General of PHKA

【インドネシア側カウンターパート】

Mr. Arman Mallolongan Director General, Directorate General of Forest Protection and Nature Conservation, Ministry of Forestry

Mr. Banjar Y. Laban Director of Areas Conservation, Directorate General of Forest Protection and Nature Conservation, Ministry of Forestry

Mr. Adi Susmianto Director of Biodiversity Conservation, Directorate General of Forest Protection and Nature Conservation, Ministry of Forestry

Mr. Bambang Supriyanto Head of Gunung Halimun-Salak National Park, Ministry of Forestry

Mrs. Puspa D. Directorate of Area Conservation, Ministry of Forestry

その他プロジェクトカウンターパート及び合同調整委員会（JCC）委員

以上

**PDM (Ver.01)**

**PROJECT TITLE : Gunung Halimun Salak National Park Management Project**

**TARGET GROUP : Directorate General Forest Protection and Nature Conservation (PHKA), Ministry of Forestry**

**DATE : November 30, 2004**

**PERIOD : 5 years ( Feb. 2004~Jan. 2009)**

**TARGET AREA : Gunung Halimun Salak National Park, other national parks in Indonesia and NCIC**

**VERSION : 01**

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p><b>OVERALL GOAL</b> Biodiversity conservation and sustainable natural resource utilization are promoted in national parks in Indonesia.</p>	<p>*Extent of this project's contribution to IBSAP</p>	<p>*Official report/document of the Ministry of Forestry</p>	
	<p>*Extent of this project's contribution to improvements in biodiversity conservation and sustainable natural resource utilizations in other national parks in Indonesia.</p>	<p>*Questionnaire to the other national park managers *Project reports</p>	
<p><b>PROJECT PURPOSE</b> 1. Biodiversity of Gunung Halimun Salak National Park (GHSNP) is properly conserved and sustainable natural resource utilization are promoted in the park.</p>	<p>*Reduction of illegal activities in term of the number of sites, scale, number of engaging people.</p>	<p>*Official report/ document and monitoring activities of GHSNP.</p>	<p>*Sufficient number of counterparts and counter budget is allocated for this project. *There is no significant replacement of counterparts during the time *Collaborative management activities are supported by PHKA based on the Ministerial decree.</p>
	<p>*The number of issues to see a improvement and their extents.</p>	<p>*Questionnaire to GHSNP officials and stakeholders</p>	
	<p>*Public understanding/ appreciation for GHSNP and its management.</p>	<p>*Questionnaire to local people, and visitors</p>	
<p>2. Useful lessons and experiences on national park management obtained through BCP and this project are shared with park managers, staff members of other national parks and officials of the Ministry of Forestry.</p>	<p>*GHSNP management is understood as a model of national park management by other national parks.</p>	<p>*Official document of PHKA</p>	<p>Sufficient number of counterparts and counter budget are allocated for this project.</p>
	<p>*Number of knowledge, skills, techniques and methodologies shared with managers, staff members of other national parks, and officials of the Ministry of Forestry and participants feedbacks on their usefulness.</p>	<p>*Project reports and questionnaire to the participants.</p>	
<p><b>OUTPUTS</b> 1.1 The management framework of GHSNP is strengthened with involvement of all stakeholders, and the policy/strategy for the management of GHSNP are shared by majority of the stakeholders.</p>	<p>1.1.a: Achievements in management planning of GHSNP</p>	<p>*Official document of PHKA</p>	
	<p>1.1.b: The number and level of involvement of stakeholders in the management planning of GHSNP and their understanding/ appreciation for the plan.</p>	<p>*Project reports and questionnaire to the stakeholders</p>	
	<p>1.1.c: Creation of a permanent mechanism to intake various ideas, opinions of stakeholders, and visitors for the management of GHSNP.</p>	<p>*Official document of GHSNP</p>	
<p>1.2 Information systems and media prerequisite to the management of GHSNP are developed.</p>	<p>1.2.a: Achievement in developing a GIS information system and database of GHSNP.</p>	<p>*Official documents of GHSNP and NCIC</p>	
	<p>1.2.b: Achievement in facilitating park boundary delineation and developing alternative boundary identification methods.</p>	<p>*Official document of GHSNP and BAPLAN</p>	
	<p>1.2.c: Achievement in developing various maps useful for the park management.</p>	<p>*Project publications</p>	

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p>1.3 Researches on biodiversity of GHSNP are encouraged, and monitoring and protection of endangered species, particularly the three endangered species: Leopards, Java Hawk-eagles, Java Gibbons, are strengthened.</p>	1.3a: Number of locations and areas surveyed/monitored by GHSNP.	*Project reports	
	1.3b: Number of researches conducted by scientists in GHSNP.	*Research papers from scientists, record of GHSNP	
	1.3c: The number of illegal hunting's/killings of endangered species	*Official document of GHSNP	
	1.3d: The change of awareness levels of local people toward endangered species conservation	*Questionnaire to local people	
<p>1.4 Conservation activities with local communities' participation and their sustainable natural resource utilization are encouraged in strategic locations of GHSNP, and these experiences are introduced to other villages in and around GHSNP.</p>	1.4a: Achievement in restoration/ rehabilitation of degraded areas in GHSNP	*Official document of GHSNP	
	1.4b: Number of participants in the Joint Observation Activities and changes in their awareness and behaviors toward GHSNP.	*Project visual and document publication and NGO's observation report. *Report of Focused Group Discussions (FGD) in villages	
	1.4c: Number of the participants in Livelihood Support Activities and changes in their awareness and behaviors.	*Project publication and collaborating organizations' reports. *Research report of socio-economic survey by an external institution	
	1.4d: Achievements in networking and collaboration between GHSNP, and local communities, NGOs, local governments.	*Report of FGDs in villages *Interviews and questionnaires to NGOs and local governments	
<p>1.5. Function of GHSNP for ecotourism, environmental education and promotion is strengthened.</p>	1.5a1: Achievements in developing a new guideline for ecotourism development in GHSNP	*Project publications	
	1.5a2: Achievement in collaborations with local people, NGOs, local governments, tourism sectors.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the stakeholders	
	1.5a3: Number of model ecotour programs, the participants evaluations for them, and extent of tour operators involved in ecotourism.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the visitors	
	1.5a4: Number of trainees on ecotourism and their changes in skills and knowledge levels	*Official document of GHSNP and questionnaire to the participants	
	1.5a5: Number of information/ training materials developed , and their effectiveness	*Project publications and reports	
	1.5b1: Achievements in collaboration with PEMDA and local schools to deliver EE programs to children	*Project reports and official document of GHSNP	
	1.5b2: Achievements in developing EE programs/ methods can be delivered to large number of local communities	*Official document of GHSNP and project reports	

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
Function of GHSNP for ecotourism, environmental education and promotion is strengthened.	1.5b3: Number of participants to EE programs, their evaluation for the programs and changes in their awareness /understanding for GHSNP	*Official document of GHSNP and questionnaire to the participants	
	1.5b4: Number of EE materials and their effectiveness	*Project publications and reports	
	1.5b5: Achievement in improving park's website and its hit numbers.	*Project website, reports and official document of GHSNP	
	1.5b6: Numbers of media overages	*Project reports and official document of GHSNP	
	1.5b7: Establishment of Information Center, the number of visitors, and their evaluations	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the visitors	
	1.5b8: Number of inquiries on park uses, and number of correspondences	*Official document of GHSNP	
	1.5b9: Number of information, promotion materials and their effectiveness	*Project publications, reports and official document of GHSNP	
	1.5b10: Number of promotion events , their participants and effectiveness	*Project reports and official document of GHSNP	
2. Institutional and individual capabilities on managing GHSNP are strengthened, and useful knowledge, skills/techniques and methodologies on national park management obtained through BCP and this project are transferred to managers, staffs of other Indonesian national parks and officials of the Ministry of Forestry.	2.1a: Achievements in establishing an On the Job Training mechanism to share knowledge, skills among staff members in GHSNP.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the staff members	
	2.1b: Achievements in developing training modules, materials to raise field officers basic skills, knowledge on park management.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the staff members	
	2.1c: Number of trainees, the degrees of progresses gained in the trainings, and trainees' evaluation for the training contents.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the trainees	
	2.2a: Number of training modules, materials and their effectiveness/ impacts on national park management	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the park managers	
	2.3b: Number of trainees, their progresses gained in the trainings, and trainee's evaluation for the contents.	*Official document of GHSNP, project reports and questionnaire to the trainees and park managers	

ACTIVITIES are:	< INPUTS >	
<p><b>&lt;Management Framework Development&gt;</b>  1.1.1 To develop GHSNP Management Plan.</p> <p>1.1.2 To create advisory committee for the management of GHSNP.</p>	<p>Japanese side:  Long-term experts  (1) Overall/National park management  (2) Aid for community-based activities  (3) Environmental education/training/coordination  Equipment</p> <p>Counterpart training</p>	
<p><b>&lt;Information System Development&gt;</b>  1.2.1 To develop database for the management of GHSNP.</p> <p>1.2.2 To develop appropriate methods to identify the boundaries of GHSNP in the field.</p>	<p>Indonesian side:  Allocation of counterparts</p> <p>Provision of project offices in Bogor and GHSNP</p> <p>Responsibility for project expenses</p>	
<p><b>&lt;Endangered Species Conservation and Monitoring&gt;</b>  1.3.1 To carry out researches and monitoring on endangered species, particularly the three endangered species, in Cikaniki area and other strategic locations in and around GHSNP.</p> <p>1.3.2 To establish Endangered Species Monitoring and Protection Units (ESMPU).</p> <p>1.3.3 To strengthen the community support to the endangered species conservation.</p> <p>1.3.4 To enhance research programs and activities in GHSNP.</p>		
<p><b>&lt;Community Based Activity Development&gt;</b>  1.4.1 To restore or rehabilitate degraded areas in GHSNP with involvement of local communities.</p> <p>1.4.2 To carry out joint observation activities with local people for monitoring situations as well as reducing illegal activities, and establish good communication networks between local communities and GHSNP.</p> <p>1.4.3 To improve livelihood activities at communities in/ around GHSNP.</p>		

ACTIVITIES are:	< INPUTS >	
<p><b>&lt;Ecotourism, Environmental Education and Promotion&gt;</b></p> <p>1.5.1 To promote ecotourism of GHSNP.</p> <p>1.5.2 To promote environmental education (EE) for local people in and around GHSNP.</p> <p>1.5.3 To improve information services and promotion of GHSNP.</p>	<p>Japanese side: Long-term experts (1) Overall/National park management (2) Aid for community-based activities (3) Environmental education/training/coordination Equipment</p> <p>Counterpart training</p> <p>Indonesian side: Allocation of counterparts</p> <p>Provision of project offices in Bogor and GHSNP</p> <p>Responsibility for project expenses</p>	
<p><b>&lt;Capacity Building and Transferring Useful Lessons to Other National Parks&gt;</b></p> <p>2.1 To raise GHSNP officer's basic knowledge and skills on national park management.</p> <p>2.2 To transfer useful knowledge, skills, techniques and methodologies on national park management obtained through BCP and this project.</p>		